

## オオムラサキ・・・



当団地でも、オオムラサキや曙などのヒラドツツジ系園芸種を見ることができます。特に、オオムラサキは、ツツジの中で花が一番大きく、代表品種となっています。赤紫色の大輪の花を咲かせることから「大紫」となりました。まさに、春を彩る花木として、最近では、車道と歩道の境に植えられることが多くなりました。花盛りの季節ともなると、見事な花のベルトが敷かれたように華やぎます。

丈夫で耐寒性があり、しかも安価で根つきが良いとくれば、公共工事やゼネコンなどが好んで植栽するのも無理ありません。「植栽工事で使われる木ベスト5」に入るのは間違いないでしょう。ところで、ツツジという呼び名は、ツツジ科ツツジ属の総称で、ヤマツツジ、キリシマツツジ、クルメツツジなどと区別され、更に品種名に分かれます。常緑のツツジは、主に西日本から、韓国、中国などアジアにだけ自生し、落葉性のもも含め殆どが北半球にしかありません。その語源は、花が連なって咲くことから「つづき」、また、「筒咲き」が転じて「ツツジ」になったのではとされています。

最近、NHKの「趣味の園芸」でツツジの手入れについて紹介していました。それによると、

- ・花が終わったらできるだけ早く（遅くとも6月までに）剪定すること。
- ・夏に芽が出てくるので、剪定箇所は無造作で構わない。
- ・花が咲き終わったら必ず花柄を摘むこと。

とのことでした。なるほどなあと思いました。